

9/28教育実践15周年「交流と講演のつどい」(続)

◆様々な“バトン”が交換されました。今回は集会参加者の声を紹介します◆

【卒業生、生徒から】

◇「中1の時にここに来た。いろいろな生徒がいたけど自分の居場所があった。沢山の経験をする中で高校進学を決めた。一番の思い出は学生週、釧路大学生の皆さん！あなた方は立派な教師になれます。僕が保障します」(12年度卒・男子)

◆「私も中1から入りました。途中悩みもあったけれど、ここでやることを決めてそれからは充実していた。進学も自分の希望校にいけ、楽しく過ごしています」(12年度卒・女子) ◇「中学で辛いことがあり、最初は塾に入りそこからスクールに移った。ここでは誰とも楽しく過ごせた。自由が丘で子ども館の小学生たちと接したりしたことが、これからの進路にとっても参考になっており保育士をめざしている。在学生のみんなもうまくいくと思うので頑張ってください」(10年度卒・女子) ◆「今高校2年、とっってもうまくいっている。自由が丘は3年生の時に入った。毎日が面白くて、バス地下鉄通学も苦にならなかった。後輩も高校に来たので期待している」(11年度卒・男子)

◇「私はこのスクールと出会い続けてきて本当に幸せだと思う。もちろん、親の理解や援助があったから。今後はここで身につけたことを生かしていくこと…これからもよろしく」(在籍生)

【役員、会員、支援者から】

●「運動を始めた当時の資料を振り返っている。新しい教育をするんだという意気込みで大人達は漲っていた。今の教科書は詰め込みばかりで大事なことが抜けている…人間が生きていくために本当に必要なものをきちんと伝えていかねばならない。もう少しふんばらねば…」(HY) ○「このような教育の場が続いていることは素晴らしい。医療・介護の世界でも大事なことは『一人ひとりに寄り添う、固有の人生を辿った人間として』接すること。難しいことだが大事な観点となる…直接教育分野ではないが出来ることで応援をしたい」(MT) ○「自分も80歳になるが鈴木先生の歩みを参考にしながら生きている。今は東北大地震の人達に音楽を通じて支援している。どれ程できるか判らないが、これからも関わりたい」(TS)

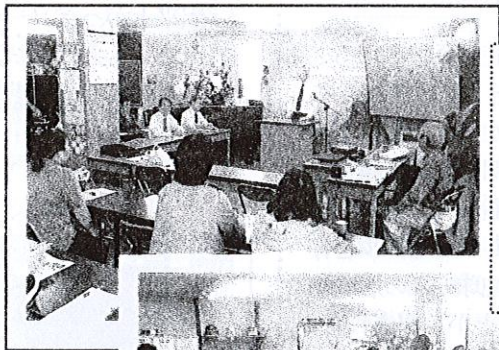
●「戦中の子どもの時代…当時

は公共の秩序を乱すという、男女席を同じうせずだったし軍国少年だった。教育はやり方によっては恐ろしい人間・社会を作り上げる。戦後に男女同席したが、どう対応したものか困った…それらを忘れぬように今の動向に気をつけねばならない」(AH)

○「100年前のデューイの児童・生活中心の教育から今どこまでの蓄積や発展をしているか。鈴木先生も吟味をしようと述べているが、当方も実習の仕方や実際の内容をどう理論化するか、今一度検討せねばならないと思っている」(SK) ●「今回は公開授業も参加した。昔、学校の教師を続けた後に研究活動をしなが、自由が丘の生徒たちと接する機会があった。可能な範囲でお手伝いできればと思う」(MT)

【卒業父母から】

◇「娘は小学で不登校だったが、見学体験後に自分で行くこと決め、それからは元気一杯。進学して今は大学生…新しい世界を体験中。親としては見守りながら応援です」(KF) ◆「入学した当時、スタッフに『うちの子どものつづさないで』と失礼なことを言った記憶がある…自由が丘で学び過ごした中で進路を見出していった。ここは子ども達と正面から向き合う大人や仲間がいて本当に良かった。これからも続けてください」(MS) [文責編集子]



◇下…交流懇親の二コマ
◇左…会員からの発言